

ありだし 社協 だより

あがらが主役
あがらが創る
あがらのまち

2020
11



小学校6年生児童代表が
毎月将来の夢を発信！
10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！



将来の夢

保田小学校 6年生



有田市社会福祉協議会
HPはこちら



NEXT ▶ 次号は、田鶴・糸我小学校から「夢」発信！

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金と寄付つき商品事業「JUST」による寄付金の一部で発行させていただいています。

多岐から取り組む

コロナ禍での 学び

有田市社会福祉協議会は、2013年度から「子どもたちがつなぐ未来への希望 福祉の種まきプロジェクト」と題し、様々な角度から子どもを中心に、共に生きる力をつける福祉教育の取組を続けています。

これまで、子どもたちを地域の様々な大人とつなぐことができました。そのことにより、大人たちも新たなつながりをもったり、役割意識が芽生えたりしてきました。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症のために、特に高齢者につながる授業を考え直す必要が出てきました。

福祉教育は、「今ある課題」に向き合うことが大切です。

突然現れ、世界中に影響を及ぼしている新型コロナウイルスは、災害ともいえる新たな課題です。

そこで、社会福祉協議会からそれを題材に小学生や高校生が学ぶ授業を提案し、現在その学びを続けています。誰もまだ全容の分からない、新型コロナウイルスについて知り、それに向き合っている立場の違う方の状況や思いを知っていきます。その上で、「共に生きる」ために子どもたちは自分たちにできることを考え、行動していきます。

箕島高校情報経営科3年地域課題研究班

インタビュー先

対面インタビュー

- ・オークワ箕島店(地域スーパー)
- ・有田市立病院(医療従事者)
- ・有田市役所ふるさと創生室(行政)
- ・サザンクロス有田(介護事業者)
- ・初島公民館(地域活動)



▲有田市立病院 感染防護服を体験

オンラインインタビュー

- ・関西大学所めぐみゼミ(大学生)
- ・全国社会福祉協議会
全国ボランティア・市民活動振興センター(都心部に立地する社協：福祉)



▲全社協職員へオンラインインタビュー

箕島小学校6年生

- ・有田市役所経営企画課
- ・ひまわりケアサービスグループホーム

ACTION ~自分たちにできること~

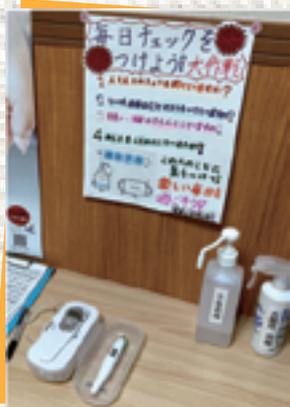
1学期に取り組んだ箕島小学校6年生は、自分たちも感染予防について啓発のお手伝いをしようとポスター作成をしたり、面会できない入所者の方にお手紙を出してくれました。社会福祉協議会が事務局をしている地域福祉ネットワーク会議に参画している福祉施設にお届けしました。

宮原小学校6年生

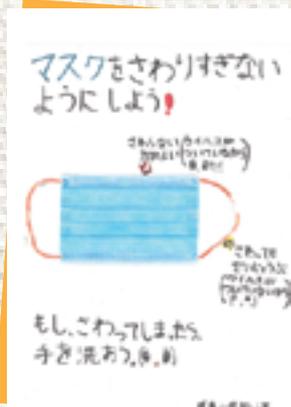
- ・中紀バス
- ・有田市立病院

保田小学校6年生

- ・医療に従事している保護者等
- ・有田振興局健康福祉部
- ・県議会議員
- ・ありだ橘苑
- ・有田市役所産業振興課
- ・スーパー広岡



▲ありだ橘苑にて掲示



▲啓発チラシ



▲啓発ポスター

母校 初島中学校への思いが「ふるさと学習」となって花咲かす



チームメイト募集中!

ろくおうか
六桜花は、小学校の校章にも使われ、初島地区の方には馴染みのある言葉だそうです。

初島にある椒古墳の中から6枚の桜の花びらをモチーフにしたものが発見されたことが由来とのこと。初島地区の民生委員である北野さんが、初島を何とかしたい!と少しずつ仲間を集めてきました。徐々に仲間が増え、現在は6人の仲間がいます。本来は住民による生活支援を考えていますが、コロナ禍もあり、進めづらい状況にありました。

しかし、そんな中で初島中学が先行統合され、市内で一番先に閉校となるということが決定。中学生に改めて初島を知ってもらいたい!そんな思いから、チーム六桜花の面々が初島中学1, 2年生にふるさと学習の授業を行うことになりました。

テーマ

- 1 「君は ふるさとのことを知っているか!」
石碑から見えてくる「ふるさと」のこと
- 2 東燃(エネオス)と歩んだまち初島
～自転車巡回学習を経てこれからの初島を問う～
- 3 初島の農業 ～石積み体験をとおして～
- 4 オリジナル手袋をつくろう
日出手袋工業(株)から学ぶ



△授業計画会議のひとコマ

計5回の授業内容は六桜花の主要メンバー3人と、有田振興局農地課の皆さんがすべて考えました。教えるためには大人がまず学ぶ必要があり、大人も子どもと一緒にふるさとを見つめるいい機会となりました。この授業成果は、初島中学校内でも発表予定です。



◀石積み体験後
指導して下さった農業委員の南村さんと畑中さんと一緒に。中央が子どもたちが積みあげた石垣です。

おめでとうございます!

和歌山県知事感謝状

民生委員・児童委員功労者 西中 教高 様
社会福祉事業従事者功労者 有田市社会福祉協議会
木原 見千子 様

和歌山県社会福祉協議会会長表彰

民生委員・児童委員功労者 桑原 博恵 様
ボランティア功労者 野井 泰子 様
社会福祉協議会職員功労者 西本 静子 様
山本 泰之 様

福祉用具・車いす無料レンタルのご案内

福祉用具・車いすを無料で貸し出しています。購入前の試用、旅行や通院、けがなど一時的に必要な場合にご利用ください。

貸出品目

車いす(自走用・介助用)、浴槽用手すり
バスボード、シャワーチェア、歩行器
四点杖、ポータブルトイレ など



貸出期間についてはご相談ください。
まずは、お電話でお問い合わせください。
有田市社会福祉協議会 88-2750

市民防災講演会 報告

『災害時にも助け合える有田市を目指して』

主催 有田市地域福祉ネットワーク会議



日本福祉大学社会福祉学部 教授
日本福祉大学減災教育支援センター副センター長
野尻 紀恵 氏

ご自身が経験した阪神淡路大震災や、これまでたくさんの被災地支援に入った経験から話された言葉は、聴衆を惹きつける内容でした。ほんの一部だけ要約してご紹介します。

災害時には「ご近所の力が大切」

小さな毎日の積み重ねは、そこに住む人たちが助け合わなければ誰もそこに介入してくれない。それぞれの避難所にいる人によって、もちろんそれは元々地域で暮らす人たちでもあり、配慮すべきことは変わる。そこに答えはない。災害が起こった直後から、その後の長い暮らしは始まっている。地域には多様な方が暮らしていることを考えると、「話し合い」でしか答えは見つからない。



「自分のために逃げましょう」ではなく、 「誰かのために逃げなきゃいけない」

災害対策基本法にある「避難行動要支援者台帳」は行政が持っても意味がない。その情報を持っている人が、それを活かしながらまちづくりをする。あの人は誰が助ける？どうしたら避難してもらえる？そんなことをみんなで考えていくことがすごく重要。



大切な人の存在が避難行動を率先させる。有田市ではそのためのまちづくりをどうしていくか。日頃の地域力が非常時の底力になる。普段から困ったと言い合える地域であることも大事。家族防災会議と共に、地域として災害に備える必要がある。

まずは、「有田市が今までどう備えて来たか」洗い出しをしよう

ハザードマップに対して指定避難所がいいのか、物資は足りているのか、避難所運営の訓練は十分か、これまではどんな被害があったのか。避難するためにはどうすればいいのか。

社会福祉協議会は、福祉や医療専門職と共に、地域の皆さんと災害についての備えを話し合っていきます。



有田市地域福祉ネットワーク会議
新規参画法人随時募集中です！！

本講演会の司会は、箕島高校情報経営科2年、坂井楓河さんと知念春那さんでした。知念さんは小学校当時、社会福祉協議会と福祉の種まきプロジェクトを一緒に進めた一人です。成長した姿に事務局は非常に嬉しく、また頼もしく思いました。



▲左から坂井楓河さん
野尻紀恵教授
知念春那さん